

小牧市学校体育教育研究会

部 長 野 田 幹 広
研 究 主 任 関 戸 浩 平 (中学校)
研 究 副 主 任 菅 原 裕 貴 (小学校)
部 員 数 56名

『小学校』

1 研究主題

ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習
～ICT 機器を活用した体育実践について～

2 はじめに

一人一台のタブレット端末が導入され、今年度より、様々な授業で活用されている。体育の授業においても、ICT 機器を有効に活用することで、児童の学びをより深いものにするるとともに、指導や評価の継続性を確かなものにし、児童の活動時間を十分に確保した授業が展開できるであろうと考えた。

3 研究の経過

本年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、小委員会を中心に ICT 機器の有効な活用方法について検討を重ねた。単元はバスケットボール・跳び箱運動で検討をしていくこととした。

4 研究の概要

ICT 機器の活用方法について以下の内容を中心に話し合いを進めた。

(1) 知識・技能の習得に向けて

- ・各自の動きを撮影し、技の行い方について、確認したい自分の動きを必要に応じて繰り返し視聴できるようにする。
- ・授業中に学習した運動のポイントと自分の動きを比較して、できている点や修正点の確認に活用する。
- ・毎時間の運動の様子を撮影し、運動の変容を確認したり、比較したりすることで自己変容を確認できるようにする。

(2) 思考力・判断力・表現力の育成

- ・活動の様子を視聴することで、次回に向けて作戦を立てるきっかけをつくり、仲間と意見交換や運動での交わりなどの交流できるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等の涵養

- ・ICT 機器で検索したり、記録を蓄積したりすることで過去の自分の記録や全国の平均値等との比較ができるようにする。
- ・振り返りの蓄積・集約を行うことで、児童がつまづいているポイントの速やかな把握とつまづきに応じた指導・支援につなげることができるようにする。

コメントの追加 [野田 幹広1]: ここでいう「交流」とは「意見交換」なのか「運動での交わり」なのか、両方なのか？どう考えているか。(表現はこれでもいいと思うが、考え方を確認しておきたい)

5 今後の課題

児童の運動する機会が減少傾向にある。また、コロナ禍での体育授業は、教育課程通りの実施が難しく、試行錯誤を重ねながら進めている。そんな中、今年度はICT機器の活用方法について検討を重ねてきた。今後、各学校にて実践を行えるような具体的な手立てを模索していくことが必要であると感じる。引き続き、ともに学び合い、高め合う児童が育成できるような体育授業づくりについて研究していきたい。

『中学校』

1 研究主題

ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習
～仲間と関わり合うなかで、自ら課題解決に向けた取り組みができる生徒の育成～

2 はじめに

生徒自らが課題を発見し、その課題解決に向けた手立てを見つけ、解決に向かうことができれば、得手不得手に関わらず、主体的に体育学習を行えるであろう。そのために、生徒自身が参加しやすい場を設定することや学習カードの工夫、近年導入されたICT機器等を活用しながら、仲間と関わり合い、だれもが楽しく参加できるような授業展開を作成し、実践・研究を進めていこうと考えた。

コメントの追加 [野田 幹広2]: ICT機器を用いた学習カードも考えられるが、今回は？

3 研究経過

本年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、実践を行えていない。研究テーマに沿って、次年度の実践に向けたアンケート内容の精査や目指す生徒像の実現に向けた具体的な手立ての検討を重ねた。

4 研究の概要

研究テーマに沿って、実践を行うための具体的な手立てや目指す生徒像について意見交換を中心に行った。目指す生徒像の実現に向けて、以下のことについて検討を重ねた。

(1) 知識・技能、思考力・判断力・表現力等の育成にあたって

- ・生徒個人の運動技能向上に合わせた活動場所の設定を行うことで、生徒自身が課題を発見し、課題解決に向けた反復練習ができる機会を設ける。
- ・課題解決に向けた運動のコツや得た知識、考えたことを即時実践できる環境を設定することで、技能習得を目指す。
- ・ICT機器を活用することによって、自分の運動について客観的な視点から観察することができたり、自分の運動感覚のずれについて他者と比較できたりすることで、運動技能が異質な生徒や同質の生徒と関わり合うきっかけをつくる。
- ・個々の思考の変遷や技能向上に向けた課題を明確にするために、学習カードや振り返りに、個人だけでなく、チームやペアなど相手に目を向ける観点を設ける。そして、仲間のアドバイスをもとに実践したことや考えたことを言語化する。

(2) 学びに向かう力、人間性等の涵養にあたって

- ・各自の運動技能や課題に応じて、場を変化させたり、難易度を変更したりできるよう

にすることで、課題に合わせた運動を繰り返し行うことができる。できる技が増えることで、種目や単元に対して前向きに捉えられるのではないかな。

- ・ICT 機器によって、情報の蓄積が簡素化され、思考の変遷や運動技能向上の過程を積み上げ、フィードバックすることが容易にできるようになった。各自の思考の変遷や技能向上の過程が可視化されることによって、より達成感を味わうことができ、自分の運動技能に対して肯定的に考えられるようになるのではないかな。

- ・振り返りの蓄積やわからなさの共有がしやすくなったことにより、生徒同士が関わり合うきっかけづくりとつまずきに対する指導や支援への一助となり得るのではないかな。

- ・学習カードの記入欄に、チームやペアなど相手に目を向ける観点を作成し、意識的にアドバイスを送り合えるような環境をつくることによって、生徒同士が関わるきっかけになるのではないかな。

5 今後の課題

新型コロナウイルス感染症や新学習指導要領への移行があり、体育授業に試行錯誤を重ねながら進めている。昨今、運動する機会が減ってきている生徒にとって、運動が楽しいものであると感じるような授業づくりを考えていく必要がある。研究テーマに沿った生徒の育成を目指して、具体的な手立てや実践方法についてさらに検討を加え、来年度の実践につなげていきたい。